

パブリックコメント資料 1

(仮称) 流山市立市野谷小学校
基本設計（案）の概要

（仮称）流山市立市野谷小学校基本設計（案）

流山市 令和 3 年 6 月

1. 敷地概要・計画概要

(1) 敷地概要

所在地	： 流山市市野谷 1 3 5 番地ほか		
敷地面積	： 約 20,000㎡(土地区画整理事業により学校用地を整備)		
都市計画区域	： 流山都市計画区域		
区域区分	： 市街化区域		
用途地域	： 第一種住居地域	第一種低層住居専用地域	
建ぺい率	： 60%	60%	
容積率	： 200%	150%	
高さ制限	： 第一種高度地区(20m)	指定なし	
日影規制	： 4h—2.5h/4m	4h—2.5h/1.5m	
防火指定	： 法22条区域		
接道	： 北側 - 幅員 18m (都市計画道路 3・4・5 加市野谷線) 東側 - 幅員 10m 西側 - 幅員 6m(予定) 南側 - 幅員 10m(予定)		

(2) 計画概要

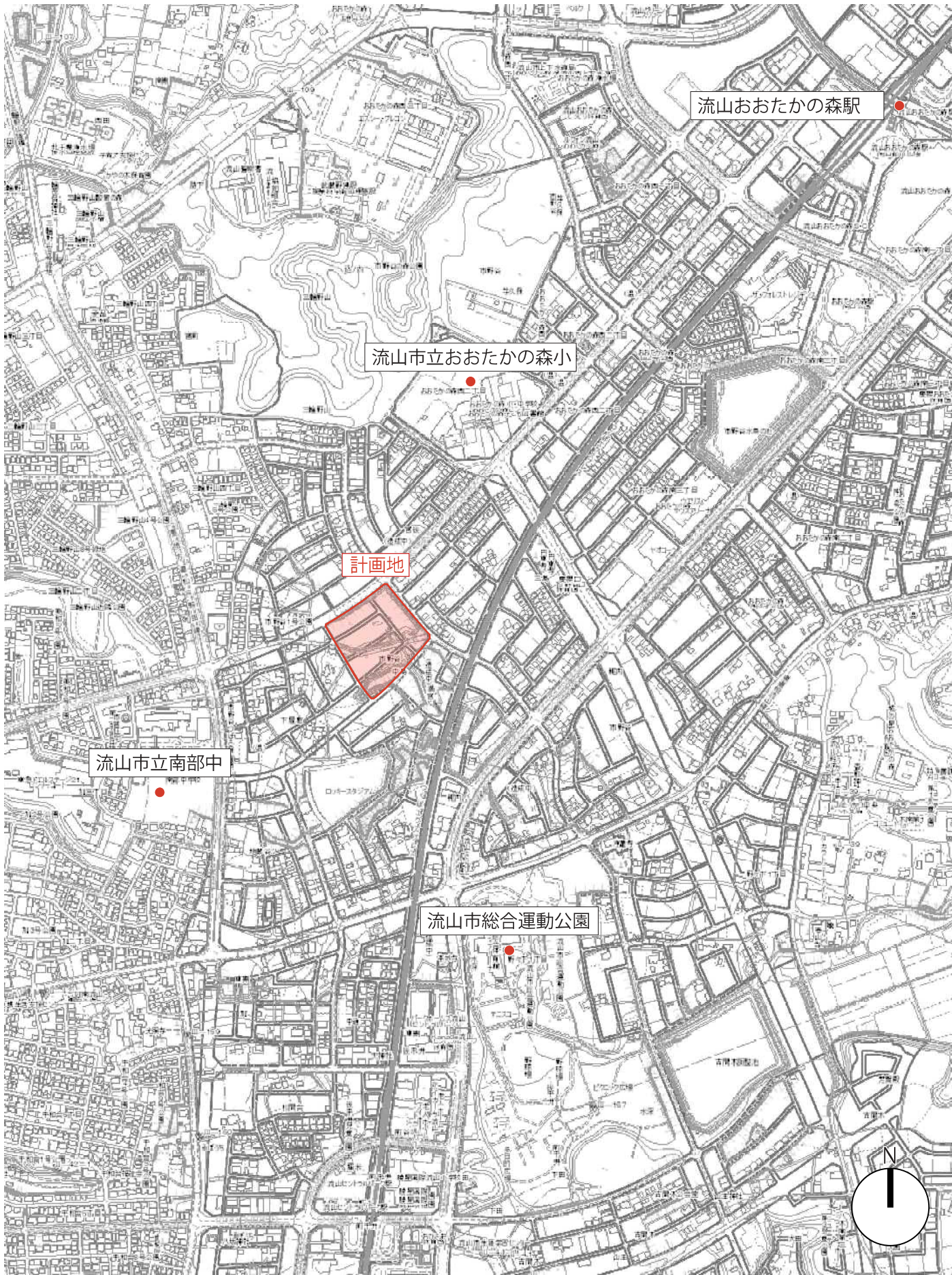
主用途	： 小学校	階数	： 地上 4 階
建築面積	： 約 4,900㎡	高さ	： 約 16.5m
延べ面積	： 約 12,000㎡	構造	： 鉄筋コンクリート造

(3) 学校規模

おおたかの森小学校区の約半数である 1000 人程度とし、普通教室 27 学級・特別支援学級 4 学級の学校規模を想定しています。



計画地拡大図



案内図 S=1/10000

2. コンセプト・基本方針

(1) 学校施設等の計画方針

(仮称)市野谷小学校のコンセプト

自分で学び考える力を育む学校

- ①主体的に学ぶことが出来る多様な学習
- ②情報化社会に対応したICT教育



新しい学校施設の計画方針

- (1) 個人学習やグループ学習など様々な形で学習できる、多様な学習空間を設け、児童の主体性を育む空間づくりを行います。
- (2) タブレット型端末などのICT教育環境の充実した設備を導入します。

交流を促し人間力を育む学校

- ①他学年との交流が生まれやすいゾーニング
- ②コミュニケーション力の向上



- (3) 互いの活動が見える空間とすることで、他学年との交流が生まれやすい空間づくりを行います。
- (4) コミュニケーション力の向上のために様々な単位で対話・活動が出来るスペースを設置します。

安全に安心して過ごせる学校

- ①豊かな心と健やかな身体を育てる安全な環境
- ②避難所機能を備えた地域の防災拠点



- (5) 豊かな心と健やかな体を育成できる空間や屋外施設を設けるとともに、安全で安心な空間づくりを行います。
- (6) 地域の防災拠点として、充実した避難所機能を整備します。学校再開後も明確な管理区分とすることで災害時も安心な学習環境を確保できる配置とします。

緑豊かな環境にやさしい学校

- ①敷地内を緑化した緑豊かな環境
- ②自然エネルギーを活用し、環境に配慮した校舎



- (7) 敷地内は積極的に緑化し、校舎環境はもとより、地域環境、景観の向上を図ります。また、自然採光、自然通風など自然のエネルギーを活用し、環境への負荷を低減します。

地域とともに歩む学校

- ①新設校として新しいまちの拠点
- ②地域、家庭、学校の連携を支える学校
- ③地域に開かれた生涯学習としての場
- ④他校との円滑な交流
- ⑤将来の人口増減に対応するフレキシブルな計画



- (8) 地域とともにある学校として、地域連携室や通級指導教室の設置など、学校の複合的な利用を可能とし、管理区分が明確な学校づくりを行います。
- (9) 円滑に小中連携活動が実施できる配置とします。
- (10) コンパクトなゾーニングとし、増築スペースを確保します。また将来の施設転用がしやすい構成とします。



普通教室イメージ図



多目的スペースイメージ図



鳥瞰イメージ図

3. 配置計画の基本方針

(1) 基本的な考え方

- ・敷地の北側に校舎を配置し、南側に明るく広いグラウンドを確保します。
- ・校舎はコンパクトにまとめ、敷地を有効に活用します。
- ・敷地周囲から離隔を確保した校舎配置とし、近隣への圧迫感、日影の影響に配慮します。

(2) 北側校舎エリア

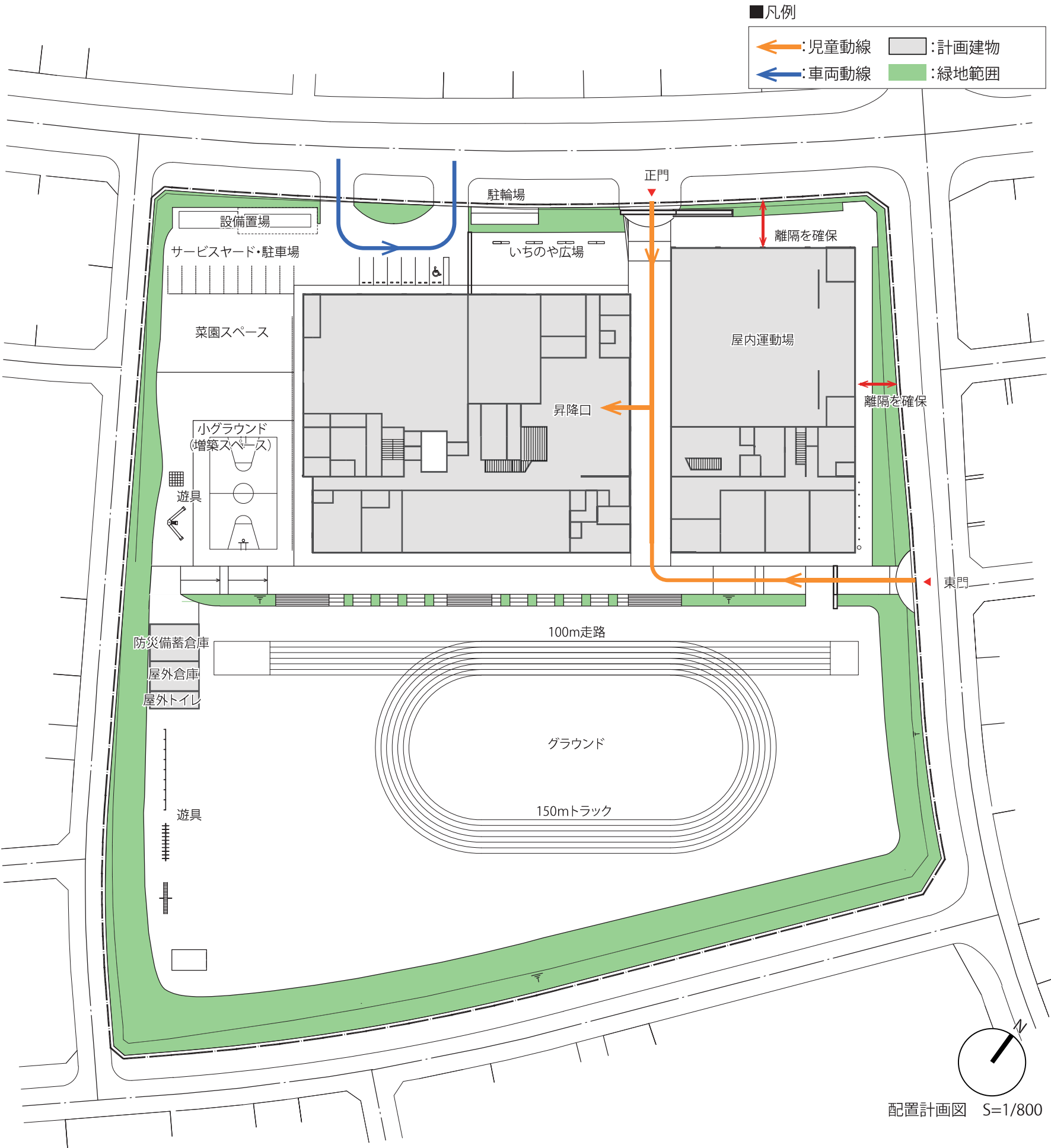
- ・校舎は、教室への採光に配慮した配置とします。
- ・正門に面し、いちのや広場を配置します。防災井戸やかまどベンチを配置し、災害時には屋内運動場と合わせて、災害支援の拠点となります。
- ・校舎西側には、小グラウンドを配置します。低学年向け遊具、菜園スペースを設け、グラウンドとの活動のすみ分けを可能とします。
- ・小グラウンドは、児童数増加の際は、増築スペースとして活用します。このため、将来の工事動線に配慮した位置とします。
- ・校舎北側にサービスヤード、駐車場、駐輪場を配置します。

(3) 南側グラウンドエリア

- ・グラウンドは日当たりが良い敷地南側に配置します。
- ・日常の利用や行事での活動に対応できる十分な大きさを確保します。
- ・校舎からの見通しを確保し、児童の様子を見守りやすい環境とします。
- ・周囲には遊具、屋外倉庫、屋外トイレを配置します。

(4) 動線計画

- ・児童と車両の動線を分け、児童の登下校等、日常の安全に配慮します。
- ・正門、東門の2ヶ所に校門を設けます。
- ・昇降口は校舎中央に配置し、各門からの登下校のしやすさと、グラウンドへのアクセスに配慮します。



配置計画図 S=1/800

4. 平面計画

(1) 基本的な考え方

- ・明快なゾーニングでわかりやすく、単純な動線とします。
- ・1階は管理諸室のほか、屋内運動場や多目的ホール、地域連携室など地域開放諸室を主として配置します。
- ・2～4階は普通教室、特別教室のエリアとし、学習諸室をまとめて配置します。
- ・地域開放諸室や、利用時間帯の異なる学童諸室は、動線やセキュリティ区分に配慮します。

(2) 普通教室

- ・2～4階の南面に27教室を配置し、自然採光、通風を確保します。
- ・多目的スペースを隣接し、一体的に利用することで、一斉授業だけでなく、チーム・ティーチング等の様々な学習形態に対応可能です。さらに、感染症対策として、児童同士の離隔を確保することも可能です。
- ・特別支援学級は、2階の南面に4教室を配置します。普通学級と同一階に配置し、日常的な交流を促します。

(3) 特別教室

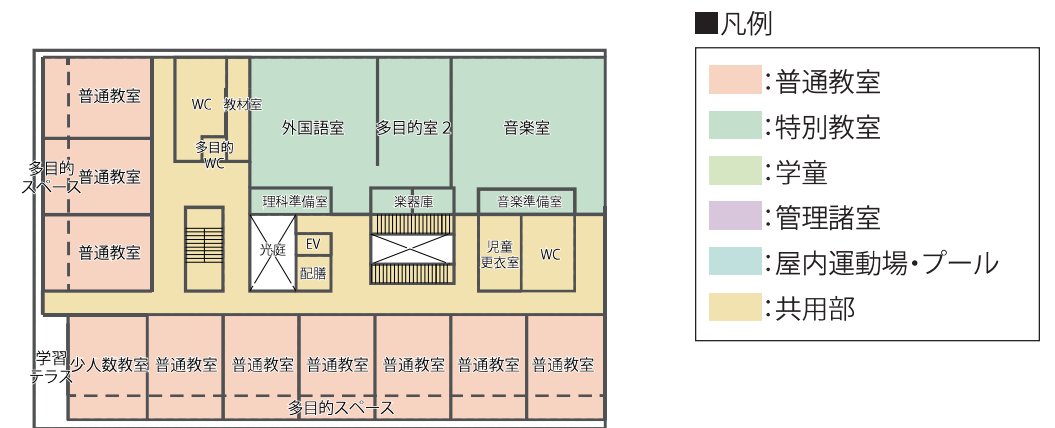
- ・2～4階の北側に9教室を配置します。
- ・特別教室は学習の領域を横断したものとなるよう、関連のある教科の諸室をまとめて配置します。

(4) 管理諸室

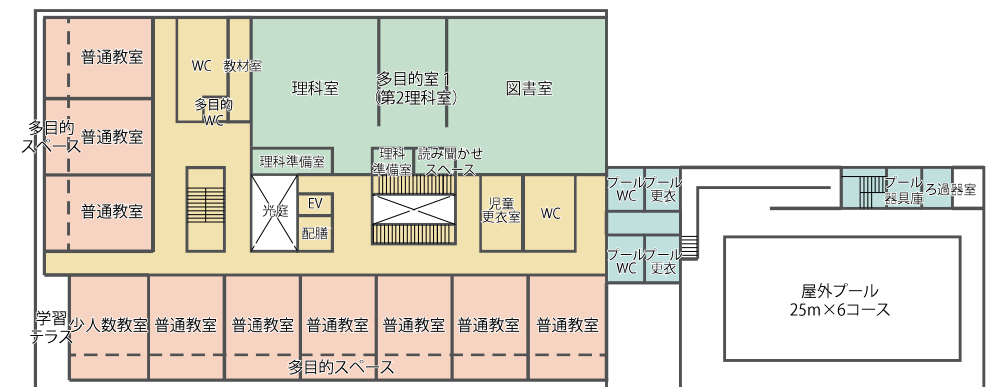
- ・1階にまとめて配置します。
- ・きめ細やかな指導や円滑な学校運営の実現のため、職員室や校長室、事務室を一つのゾーンにまとめます。校務センターとしてひとまとまりの空間の中で相互の関係に配慮した諸室配置とします。
- ・職員室、校長室、保健室はグラウンドを見渡すことが可能な位置とし、子どもたちの日常に目が行き届く配置とします。
- ・事務室は日常的に人の出入りが管理できる位置に配置します。
- ・保健室に隣接してカウンセリングや個別相談のための相談室を配置します。
- ・会議室は職員室に隣接配置とし、教職員が利用しやすい配置とします。

(5) 屋内運動場・プール

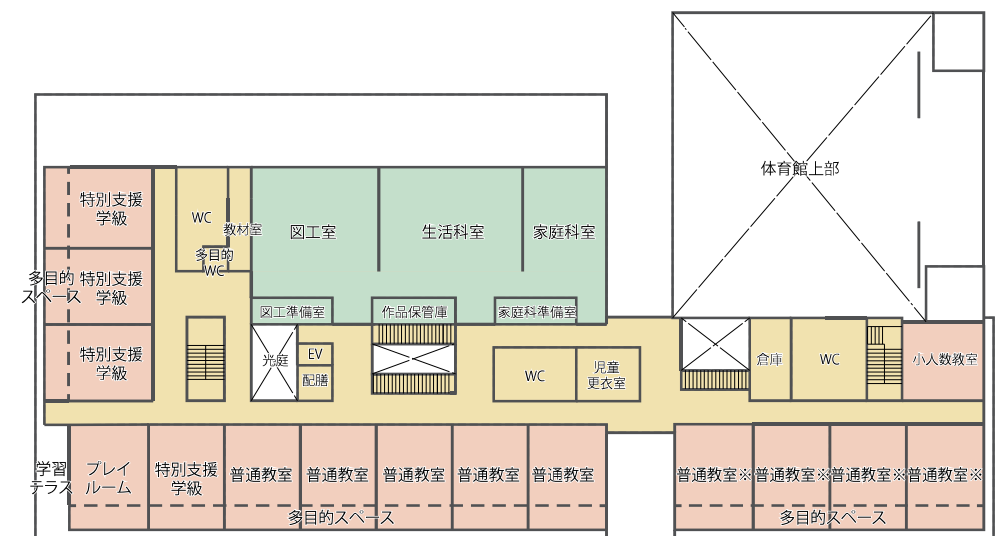
- ・屋内運動場は、ピロティを挟んだ1階の北側に配置します。地域開放利用や、避難所利用時に学校エリアとセキュリティ区分しやすい配置とします。
- ・プールは、敷地の有効活用及び、周囲の視線に配慮し、屋上に配置します。



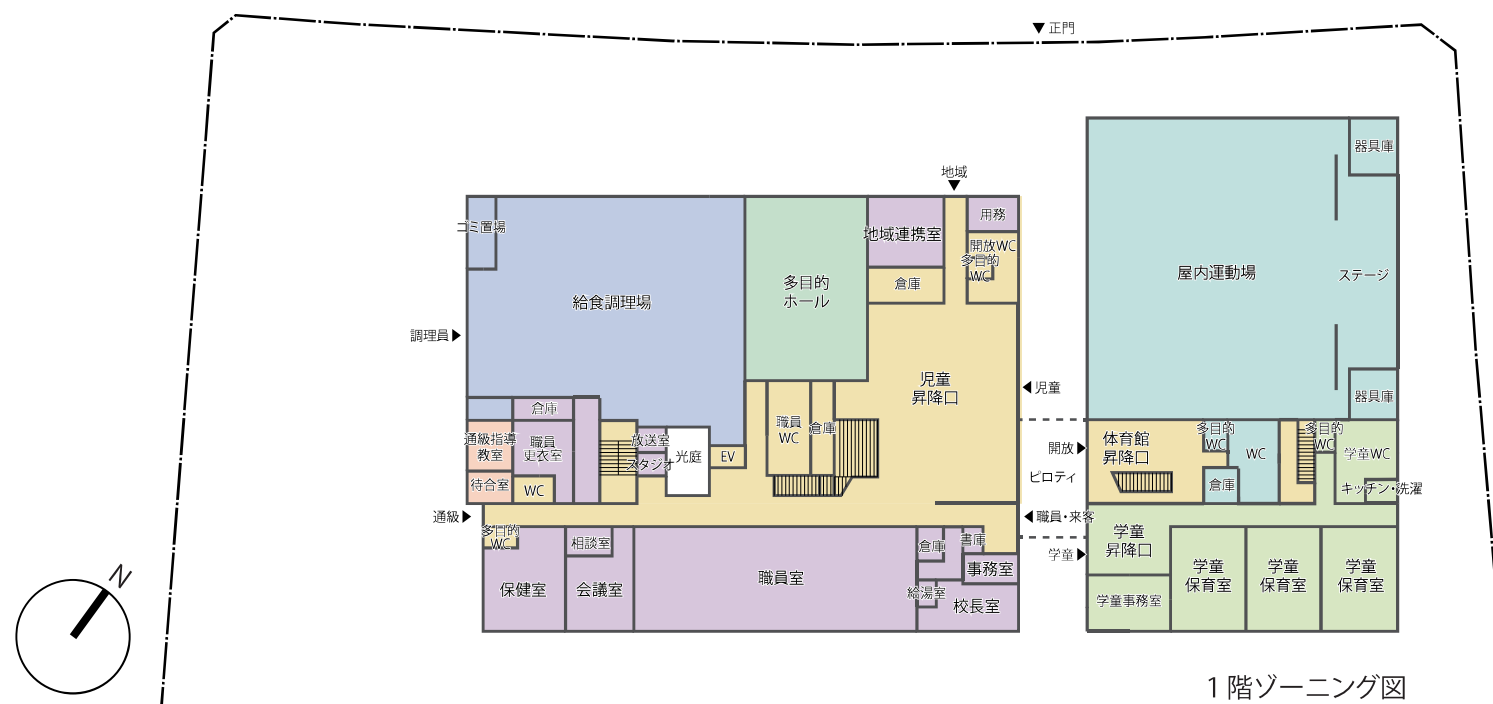
4階ゾーニング図



3階ゾーニング図



2階ゾーニング図



1階ゾーニング図

5. 立面計画

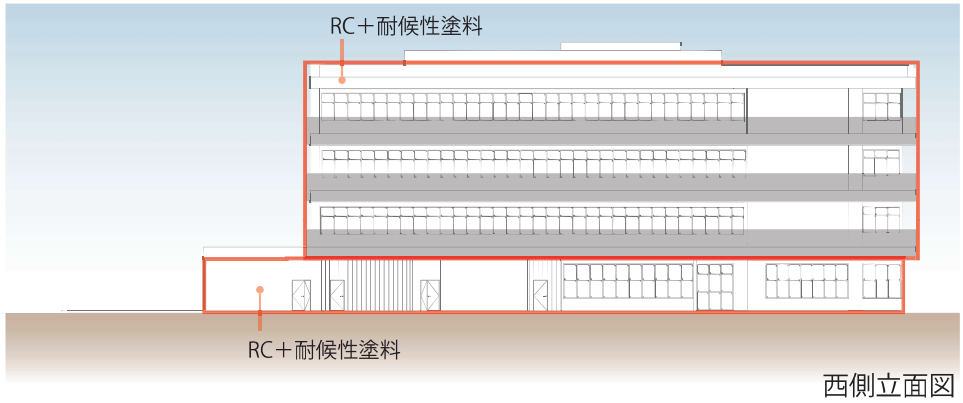
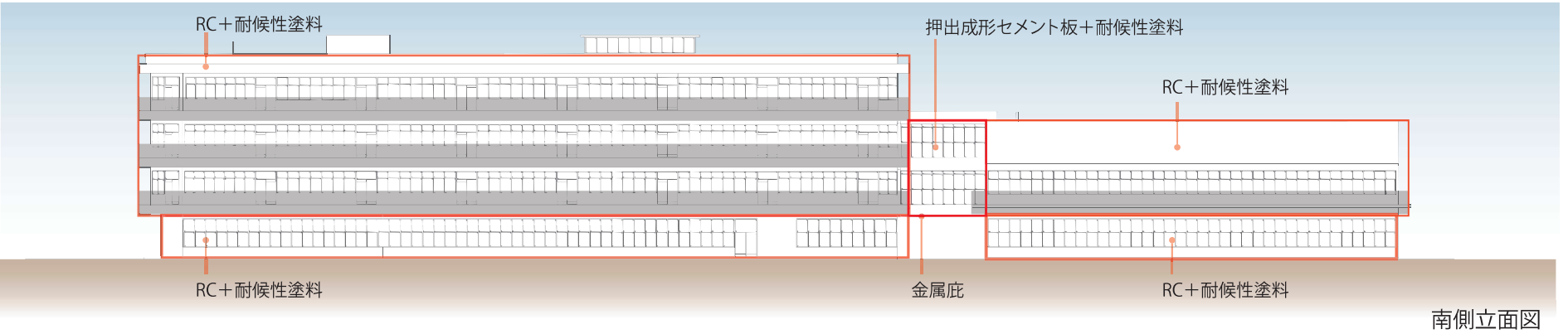
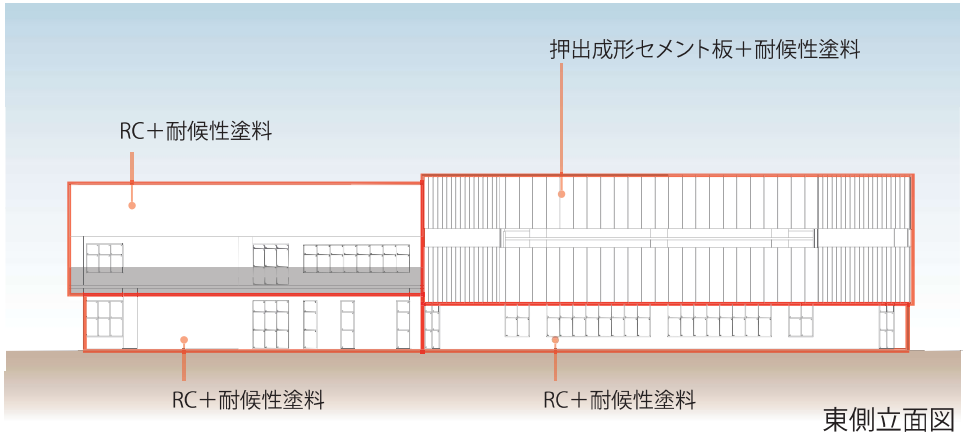
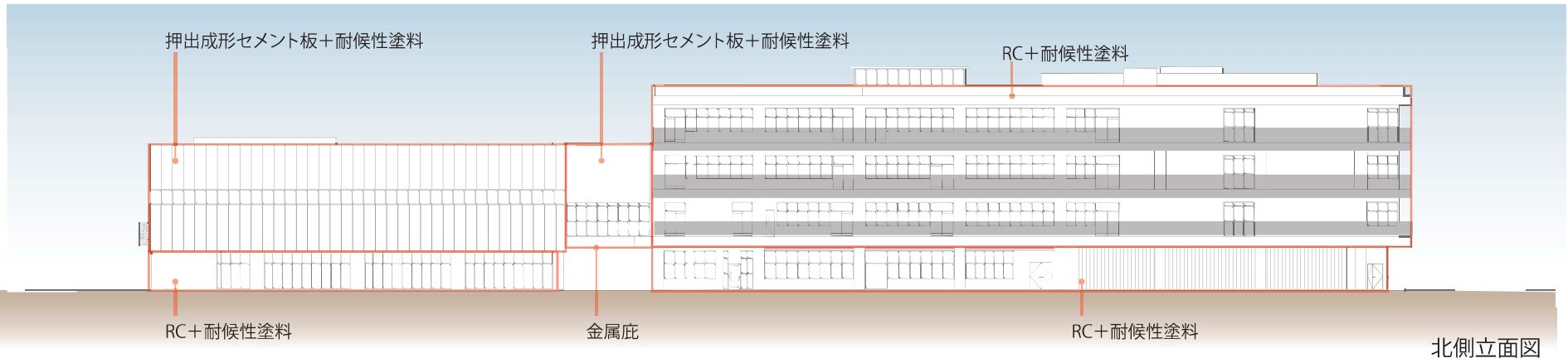
(1) 周辺環境との調和

- ・4階建校舎は、敷地境界線から十分に離隔をとり、近隣への圧迫感を軽減します。
- ・大きな開口部からは、児童の活動の様子が感じられ、明るく開かれたイメージをつくります。

(2) メンテナンス性への配慮

- ・耐久性の高い外装材を選定します。清掃性を考慮したバルコニー、雨がかりに対する庇など、長く使える計画とします。

※ 表記の色は範囲を示すための着色です。
 実際の色調とは異なります。
 ※ 外観の形状・色彩計画については検討中です。



6. 防災計画・事業継続計画

(1) 基本的な考え方

・地域の避難所として、安全性の確保、必要な機能の強化、円滑な運営を可能とするスペースの確保、教育活動の早期再開を踏まえたゾーニングとし、バリアフリーに配慮した計画とします。

①安全性の確保

・建物全体の耐震性能を重要度係数1.25として計画します。

②必要な機能の強化

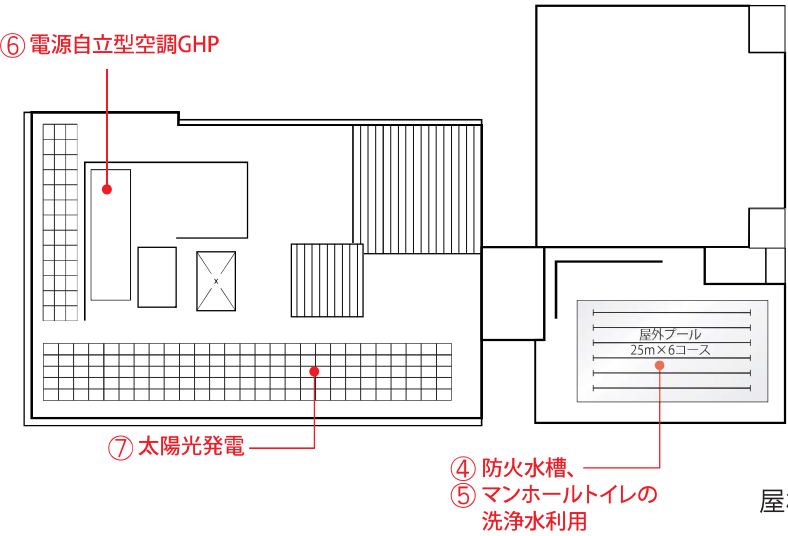
・マンホールトイレの整備、プール水の災害用水利への活用、防災備蓄倉庫等の設置を行います。

③円滑な運営を可能とするスペースの確保

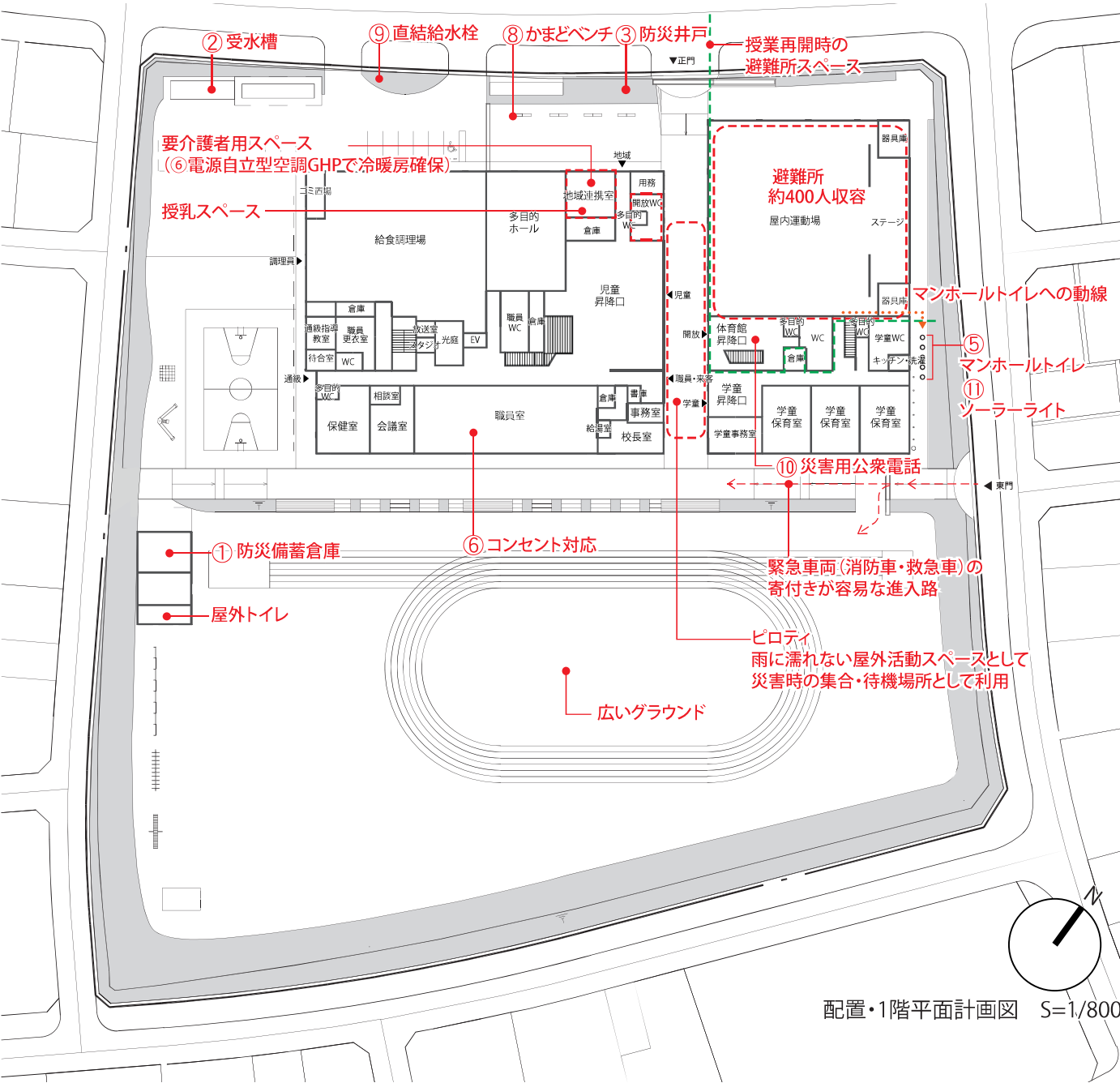
・避難・居住スペース、要介護者用スペース、炊き出しスペース、物資保管スペースと、避難所として必要なスペースを予め確保します。避難所としての想定収容人数は約400人とします。

④避難所利用時の授業継続性の確保

・教育活動の早期再開のため、避難所部分と学校機能を明確に区分します。



屋根伏計画図 S=1/800



配置・1階平面計画図 S=1/800

防災機能の強化		
① 防災備蓄倉庫		物置、資機材の保管。外部から利用しやすいようグラウンドに設置
② 受水槽(受水槽直結型応急水栓)・緊急遮断弁		断水時の水源確保
③ 防災井戸		手動式とし、停電時にも利用可能
④ 防火水槽		プール水を利用
⑤ マンホールトイレユニット		下水道直結型の防災仮設トイレを設置
⑥ 電源自立型空調GHP		職員室へのコンセント給電、避難弱者の避難エリアへの空調
⑦ 太陽光発電		屋上に設置
⑧ かまどベンチ		炊き出しに利用
⑨ 直結給水栓		停電時にも利用可能な水栓を。屋外に散水栓や水栓柱を設置
⑩ 災害用公衆電話		昇降口に災害時特設公衆電話端子盤を設置
⑪ ソーラーライト		太陽光発電による屋外灯

7. 環境配慮計画

(1) 基本的な考え方

- ・環境負荷の低減や自然との共生に配慮し、その仕組みや効果を環境教育に活用するエコスクールを目指して、学校施設の整備を行います。

(2) テーマ：五感で体感するエコ

- ・児童の環境意識の向上を目指し、エコメニューを見える化するなど、内容・効果を五感で感じることで、工夫をすることで、実感を持って環境について学ぶことのできる計画とします。

(3) 環境負荷低減手法(エコメニュー)

① 熱負荷の抑制と自然エネルギーの利用

- ・高断熱：屋根、外壁の高断熱化を行います。窓ガラスは複層ガラスとします。
- ・自然採光・通風：積極的に自然採光・通風を取り入れます。自然の風力と室内外の温度差により、建物全体で効率的に換気できるよう、開口部を配置します。
- ・日射遮蔽：庇、バルコニー、緑のカーテンにより、夏季の直射日光を遮蔽し熱負荷を軽減します。
- ・太陽光発電：屋上には太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーを活用します。

② 高効率設備システムの採用

- ・高効率機器：省電力でCO2を削減できる効率の良い空調機器を採用します。
- ・高効率照明：LEDを採用し、電力消費量の低減を図ります。
- ・照明点滅システム：トイレなどに人感センサーを設置し、非使用時に消灯することにより電力消費を削減します。
- ・節水器具の採用：トイレに節水型器具や自動水栓などを採用し、水資源を節約します。

③ 維持管理性の向上

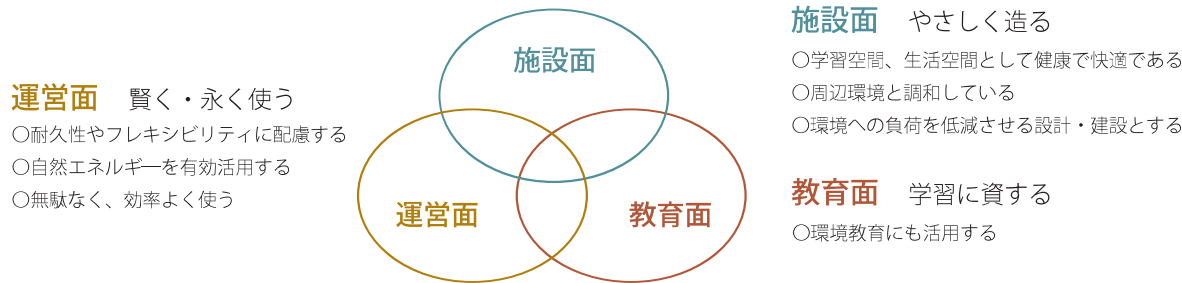
- ・施設計画：長くきれいに使い続けることで、環境への負荷を低減します。建物外周にはバルコニーを設置し、維持管理、清掃がしやすい計画とします。また、汚れにくく互換性に優れた仕上材料の選定を行います。

(4) 環境教育

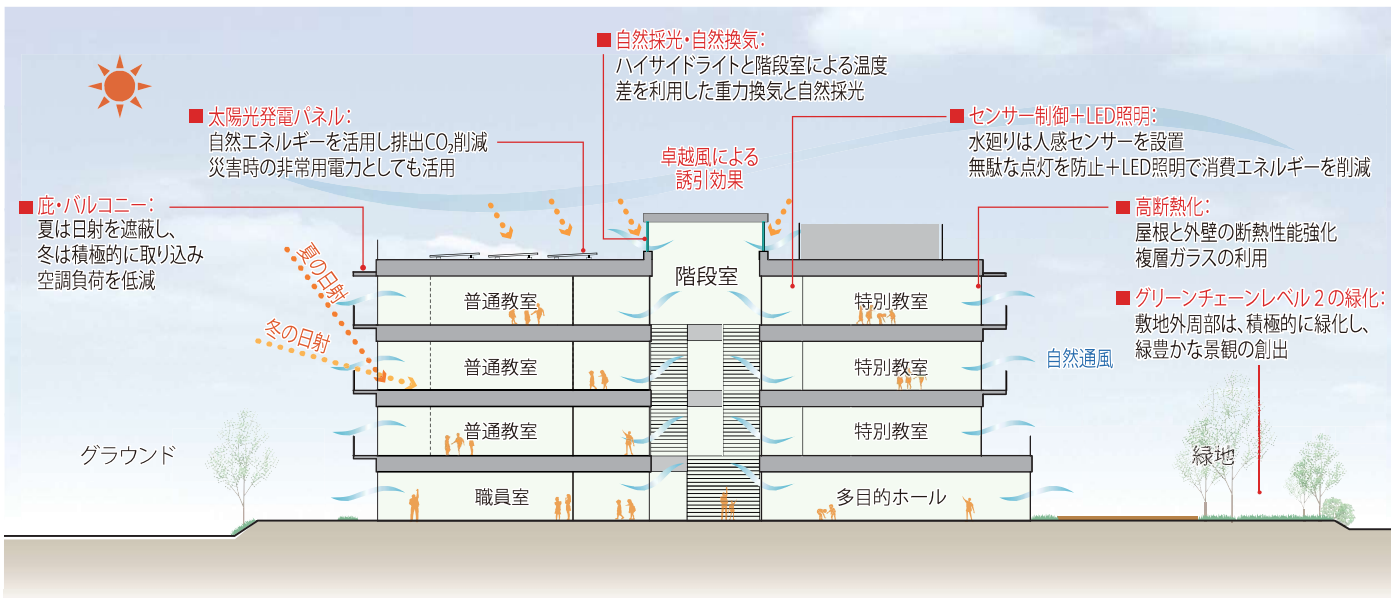
- ・エコメニューを見える化し、学校全体を環境教育に活用できるように整備します。

エコスクールの考え方

エコスクールとは、環境を考慮した学校施設のことで、エコスクールは、環境負荷の低減に貢献するだけでなく、それを教材として活用し、児童生徒の環境教育に資するものであり、地域の環境教育の発信拠点としても先導的な役割を果たします。エコスクールの整備に際しては次の三つの点に留意することが必要です。



エコスクール 環境を考慮した学校施設の整備方針（文部科学省・農林水産省・国土交通省・環境省）より抜粋



パッシブメインなエコスクールイメージ

底による日射の抑制が見える化 夏至と冬至の日射ラインを床や壁に示し、季節による太陽の高さの違いや底・バルコニーの役割を目で見て学ぶ。	緑のカーテンによる日射の抑制や風の動きの見える化 緑のカーテンをふんだんに取り入れて木漏れ日や葉の揺らめきなどから、実際に感じることで学ぶ。 出典：エコスクール 環境を考慮した学校施設の整備方針（文部科学省・農林水産省・国土交通省・環境省）
環境配慮設備が見える化 太陽光パネル等の環境配慮設備を実際に触れる、見るなど、体感することで学ぶ。 出典：自然の恵みを活用したエコスクール（文部科学省）	エコスクールマップで環境配慮機能が見える化 環境配慮設備について解説したサインを校内に設置し、省エネや木材利用などの配慮について見て学ぶ。

環境教育への活用イメージ